## ☆四旬節第4主日（3月19日）の聖書朗読☆※主任司祭からの解説があります。

### 第一朗読　（サムエル記　16 章 1、6-7、10-13 節）

その日、主はサムエルに言われた。「角に油を満たして出かけなさい。あなたをベツレヘムのエッサイのもとに遣わそう。わたしはその息子たちの中に、王となるべき者を見いだした。」彼らがやって来ると、サムエルはエリアブに目を留め、彼こそ主の前に油を注がれる者だ、と思った。
しかし、主はサムエルに言われた。「容姿や背の高さに目を向けるな。わたしは彼を退ける。人間が見るようには見ない。人は目に映ることを見るが、主は心によって見る。」エッサイは七人の息子にサムエルの前を通らせたが、サムエルは彼に言った。「主はこれらの者をお選びにならない。」
サムエルはエッサイに尋ねた。「あなたの息子はこれだけですか。」「末の子が残っていますが、今、羊の番をしています」とエッサイが答えると、サムエルは言った。「人をやって、彼を連れて来させてください。その子がここに来ないうちは、食卓には着きません。」エッサイは人をやって、その子を連れて来させた。彼は血色が良く、目は美しく、姿も立派であった。主は言われた。「立って彼に油を注ぎなさい。これがその人だ。」サムエルは油の入った角を取り出し、兄弟たちの中で彼に油を注いだ。その日以来、主の霊が激しくダビデに降るようになった。サムエルは立ってラマに帰った。

### 第二朗読　（使徒パウロのエフェソの教会への手紙 5 章 8-14 節）

皆さん、あなたがたは、以前には暗闇でしたが、今は主に結ばれて、光となっています。光の子として歩みなさい。光から、あらゆる善意と正義と真実とが生じるのです。何が主に喜ばれるかを吟味しなさい。実を結ばない暗闇の業に加わらないで、むしろ、それを明るみに出しなさい。彼らがひそかに行っているのは、口にするのも恥ずかしいことなのです。しかし、すべてのものは光にさらされて、明らかにされます。明らかにされるものはみな、光となるのです。それで、こう言われています。「眠りについている者、起きよ。死者の中から立ち上がれ。そうすれば、キリストはあなたを照らされる。」

## 福音朗読　（ヨハネ９章　1、6-9、13-17、34-38 節）

　さて、イエスは通りすがりに、生まれつき目の見えない人を見かけられた。イエスは地面に唾をし、唾で土をこねてその人の目にお塗りになった。そして、「シロアム　―『遣わされた者』という意味―　の池に行って洗いなさい」と言われた。そこで、彼は行って洗い、目が見えるようになって、帰って来た。近所の人々や、彼が物乞いであったのを前に見ていた人々が、「これは、座って物乞いをしていた人ではないか」と言った。「その人だ」と言う者もいれば、「いや違う。似ているだけだ」と言う者もいた。本人は、「わたしがそうなのです」と言った。

　人々は、前に盲人であった人をファリサイ派の人々のところへ連れて行った。イエスが土をこねてその目を開けられたのは、安息日のことであった。そこで、ファリサイ派の人々も、どうして見えるようになったのかと尋ねた。彼は言った。「あの方が、わたしの目にこねた土を塗りました。そして、わたしが洗うと、見えるようになったのです。」
ファリサイ派の人々の中には、「その人は、安息日を守らないから、神のもとから来た者ではない」と言う者もいれば、「どうして罪のある人間が、こんなしるしを行うことができるだろうか」と言う者もいた。こうして、彼らの間で意見が分かれた。そこで、人々は盲人であった人に再び言った。「目を開けてくれたということだが、いったい、お前はあの人をどう思うのか。」彼は「あの方は預言者です」と言った。

　彼らは、「お前は全く罪の中に生まれたのに、我々に教えようというのか」と言い返し、彼を外に追い出した。イエスは彼が外に追い出されたことをお聞きになった。そして彼に出会うと、「あなたは人の子を信じるか」と言われた。彼は答えて言った。「主よ、その方はどんな人ですか。その方を信じたいのですが。」 イエスは言われた。「あなたは、もうその人を見ている。あなたと話しているのが、その人だ。」 彼は、「主よ、信じます」と言って、ひざまずいた。

## 朗読解説　―主任司祭より皆様へ―

桜の花も満開が近くなりました。生命が一斉に芽生える季節になりました。昨日土曜日のミサで読まれたホセア書に次のような一節がありました。「主は曙の光のように必ず現れ、降り注ぐ雨の様に、　降り注ぐ雨の様に、大地を潤す春雨の様に我々を訪れてくださる」。主なる神は季節を通じて私たちにご自分の意志、愛を伝えておられます。春の暖かさに目覚めた植物、動物たちの命の営みが私たちの五感を刺激し楽しませてくれる今日この頃、部屋を出て街中を散歩してみませんか？

## 第一朗読　（サムエル記　16 章 1、6-7、10-13 節）

ダビデが油注がれた物として選ばれたことが語られています。主は人の外見、すなわち人の容姿の美しさや体の大きさではなく、心によって見ると言われます。人の容姿、姿は目を引きます。古代の人たちも同じでした。TV のコマーシャルでも美しく見せる美容液とか何とかが絶えず流されています。神の選びはそのようなものに左右されることなく、心の強さ、信じる心の強さが大事なのだとわかります。選ばれたダビデは王様になりますが、罪に陥りながらもあくまでも主に忠実であろうとして生きていくのです。主から離れなかったのです。

## 第二朗読　（使徒パウロのエフェソの教会への手紙 5 章 8-14 節）

眠りについている者とはイエスを知らずにいる人、またイエスから離れて闇の行いに沈んでいる人つまり以前の怠惰な、欲望に生きている人のことを指しているのでしょう。それに対しパウロは呼び掛けています。「起きよ、目を覚ませ」と。光の子となって主に喜ばれる業に励むように勧めているのです。今は寝ている時ではなく、起き上がり立ち上がる時なのです。「そうすれば、キリストはあなたを照らされる」のです。四旬節も半ばを過ぎました。イエス・キリストがなぜ十字架に付けられる必要があったのかを、起きて目を覚まし、黙想しましょう。

## 福音朗読　（ヨハネ９章　1、6-9、13-17、34-38 節）

今日の福音は生まれつき目の見えない人の癒しです。この人は目が見えるといったことを全く経験していない人です。目が見えることを体験している多くの人にとってこの人の苦しみは理解できないでしょう。イエスの出現によって目が見えることになったこの人の喜びはいかほどであったでしょうか。イエスに出会って癒された人は他にもたくさんいます。その人たちも同様に主を信じる人になっていきます。身体の障害だけでなく、心や精神のかたくなさに阻まれて神から遠ざかっている人をもイエスはその殻を土でぬぐい取ってくださるのです。　現代、私たちは多少の不便さはあっても、病気になることも少なくなり、長寿に恵まれつつあります。しかしその割には生き生きとした神との生活が持てていないのではないでしょうか。見えるようになった人が主イエスを見つめて「主よ、信じます」と答えたように、私たちも主を見つめていきたいと思います。

荒川沿いの土手に咲いた五色桜（2022 年 3 月）

P.S.

3 月 21 日(火)春分の日に東京教区では二人の司祭叙階式が行われます。皆さまのお祈りと一粒会への献金のおかげです。今後ともお祈りとご支援を続けてください。また明日 20 日は聖ヨセフの祝日です。聖家族を守り助けた偉大な沈黙の聖人です。私たちの家族を見守ってくださるように祈りましょう。

カトリック足立教会
主任司祭　野口重光